

夏期日本語集中コースにおける町紹介
YouTube Video作成プロジェクトの試み

An Exploratory Project in Creating YouTube Videos
to Introduce the Town
during a Summer Intensive Course

University of Massachusetts Amherst
潮見泰子
yshiomi@asianlan.umass.edu

なぜ
日本語を勉強しますか？



学生に 何を学んでほしいか？

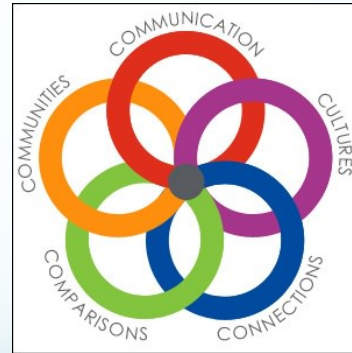
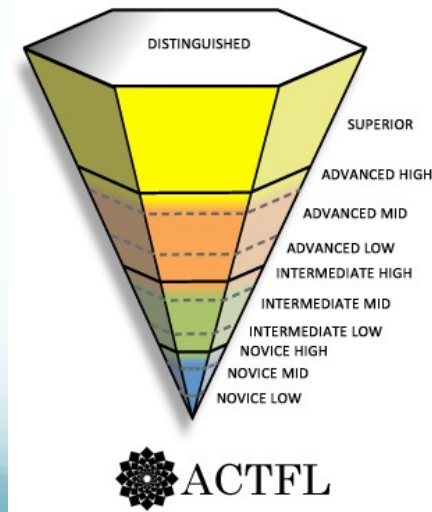


様々な外国語教授法

- Grammar-Translation Method (文法訳読法)
- Direct Method (直接法)
- Silent Way
- Suggestopedia
- Total Physical Response
- Natural Approach
- Audio-lingual Approach
- Communicative Approach

目標＝日本語の習得

ACTFL PROFICIENCY GUIDELINES National Standards



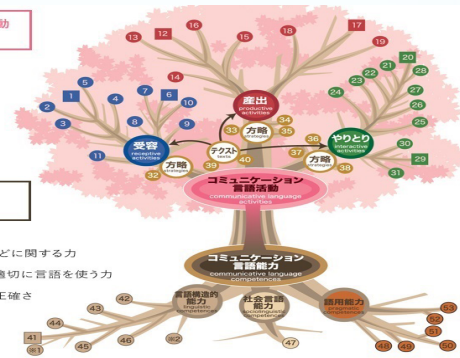
CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠) JF日本語教育スタンダード

木の枝として表現されるコミュニケーション言語活動
(communicative language activities)

- | | |
|------|------------------|
| 受容 | ・・・読む・聞く |
| 産出 | ・・・まとまった内容を話す・書く |
| やりとり | ・・・人とやりとりして話す・書く |
| テキスト | ・・・メモとり・要約・書写など |
| 方略 | ・・・推測する・発言権をとるなど |

木の根となるコミュニケーション言語能力
(communicative language competences)

- | | |
|----------|---------------------------|
| 言語構造的な能力 | ・・・語彙、文法、発音、文字、表記などに関する力 |
| 社会言語能力 | ・・・相手との関係や場面に応じて適切に言語を使う力 |
| 語用能力 | ・・・談話を組み立てる力、流暢さ、正確さ |



Can do の6レベル



- Content Based Approach (CBA)
- Social Network Approach (SNA)
「わかる」「できる」から「つながる」日本語教育、つまり、日本語を使い、人、モノ、情報、社会とつながり、世界が抱える問題を解決し、社会に貢献する人間を育成する日本語教育 — 當作(2013)
- サービスラーニング
- 協働学習
- 社会参加を目指す日本語教育
学習とは頭の中だけで起こる知識の蓄積ではなく、学習者が社会の中で他者との相互行為に参加し変化していく過程こそが、重要である
— 佐藤&熊谷(2011)



夏のプログラムの紹介

- 大分県別府市にある私立大学で行われる
- 5月の終わり～7月の8週間半のプログラム
- レベル: 初級、中級(中上級) 上級
- 90分のクラスが一週間に12回
- 学生: 世界各地



地獄蒸し体験

クラスの紹介

- 中級クラスB
- 教科書:「げんき2」13課ー23課
- クラス人数:5人
 - アメリカ2人
 - カナダ1人
 - 台湾1人
 - シンガポール1人



プロジェクトの紹介

- プロジェクトの内容
 - 別府の町で興味を持った人・物・ことの中から自由にトピックを選び日本語で紹介ビデオを作成する。
- 目標: **地域参加、貢献、交流、つながる**
- 学習者への目標
 - 世界中の日本人や日本語を勉強している人にビデオを見てもらって、別府の町を宣伝する。別府の町を元気にする。
 - インタビューを通して、大学生や別府の町の人と、たくさん日本語を話す。
- 特徴
 - 地元の人へのインタビュー
 - 同じプロジェクトを行っている上級クラスとの情報共有、お互いフィードバック交換などの相互交流

プロジェクトのタイムライン(1年目)

実施時期	活動内容
2週目	プロジェクトの紹介
3週目	トピックを決める
4、5週目	ビデオのアウトライン作成 インタビューの質問作成 インターネットなどで情報収集
6、7週目	スクリプト作成
7、8週目	インタビュー ビデオ制作、編集
9週目	YouTubeにアップロード 夏期コース最終日:発表会

相互交流1
(トピック)

相互交流2
(アウトライン)
(質問)

相互交流3
(ビデオ)

1年目の反省

- 良かった点
 - 学生と大学と別府の町とのつながりが作れた。
 - インタビューを通じ、自分たちの日本語に自信を持つようになった。
 - クラスメートや同じプログラムの学生からフィードバックをもらうことで、仲間の意識が芽生え、教室の内外でお互いに協力し合った。
- 反省点
 - インタビューの難しさ: 事前に準備できることは限られていて、その場で臨機応変に対応できる高い会話力が必要、インタビューが苦手な学生への対応。
 - 技術面や時間的制約
 - 社会に発信することの難しさ: YouTube再生回数があまり伸びなかった。
 - 長期的視野の欠如

計画の徹底

インタビューの指導

YouTubeの宣伝

プロジェクトのタイムライン(2年目)

実施時期	活動内容
2週目	プロジェクトの紹介、 意識を高める
3週目	トピックを決める
4、5週目	ビデオのアウトライン作成 インタビューの質問作成 インターネットなどで情報収集
6、7週目	スクリプト作成 インタビュー開始
7、8週目	インタビュー ビデオ制作、編集
9週目	YouTubeにアップロード 協力者に宣伝 夏期コース最終日：発表会

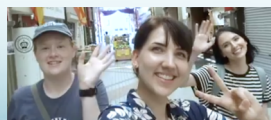
相互交流1
(トピック)

相互交流2
(アウトライン)
(質問)

相互交流3
(ビデオ)

2年目の結果

- 地元との交流の増加
- YouTube再生回数の増加
- Bクラス作成ビデオ
 - 『別府でラーメンを食べよう』(1人)
 - 『別府の昔々』(3人)
 - 『別府のスポーツ』(1人)



アンケートの結果

1. 一番楽しかったことは何ですか。

- クラスメートと色々な所に行ったこと
- みんなでビデオを取ったこと
- いい思い出が作れたこと

<目標>

- 日本語: 上達した
- 地域参加、相互交流: 生まれた
- 貢献—?

2. 一番大変だったことは何ですか。

- ビデオの編集
- インタビューの時の色々な人々との会話

3. 他の学生のフィードバックについて

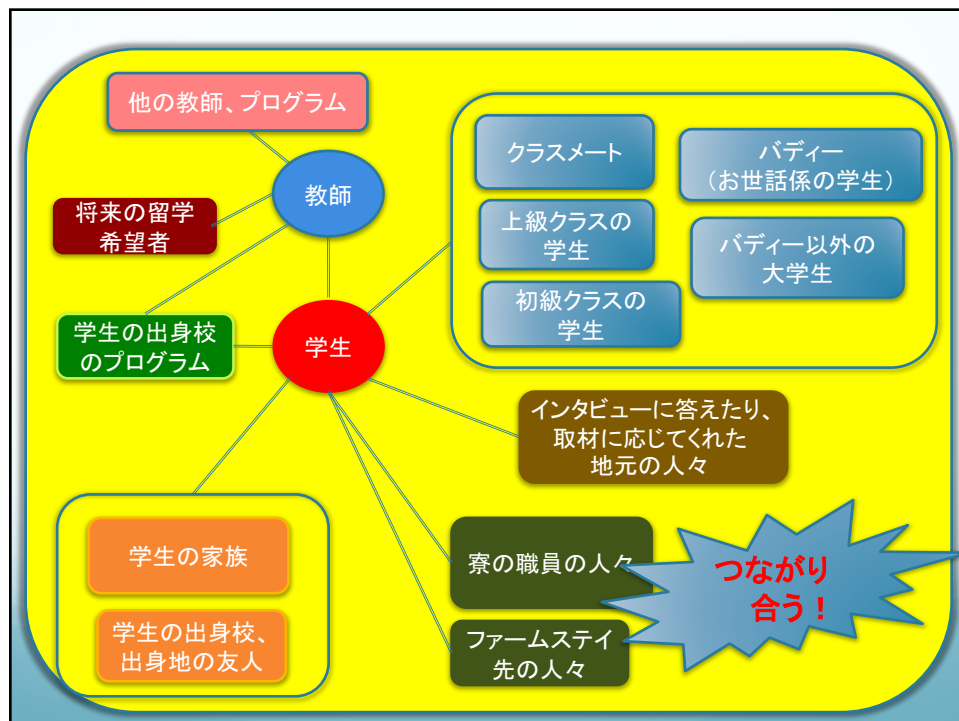
- 時間がなくて、あまり使えなかったが、参考になった。
- 目標が別府の町の宣伝だったので、ビデオを見る側の意見として、すごく参考になった。
- お互いに何をしているかが分かり、ビデオ作成を協力し合うことができた。

4. 別府への気持ちについて

- 別府がもっと好きになり、また戻って来たいと思うようになった。
- あまり人に知られていないような場所を調べるなどして、別府のことをもっとわかった。

5. 日本語の上達に役に立ちましたか。

- 役にたった。自信がついた。
- 苦手なインタビューに敢えて挑戦し、自分を強いることで殻を破る事ができた。



つながりの生まれた理由

- 偶発的結果やいろいろな過程で生じた副産物も柔軟に受け入れ、活用する。
- **教師が頼りなかった？**
学生を信頼し、学生のスタイルを受け入れ、サポートする。
- 教師自身も相互交流の中に身を置く。
- 目標設定しながらも、その先を見据える。

まとめ、反省点、これからの可能性

<まとめ>

- プロジェクトを通してつながりが生まれた。
- つながりが更なるつながりを生んだ。

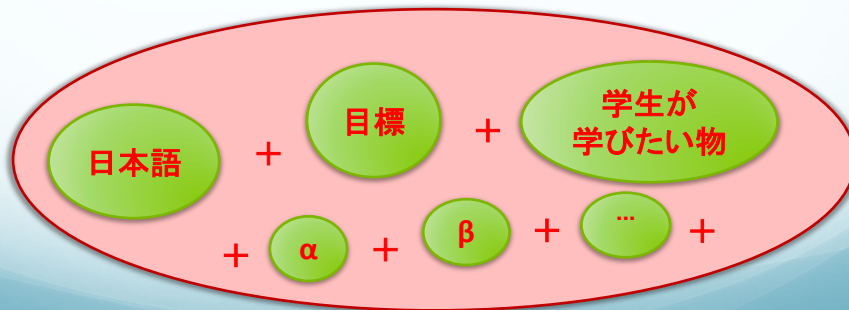
<反省点>

- 時間、技術、インタビューの難しさ。
- つながったものを更につなげる
→ **つながり合う、交流し合う、続けることの難しさ**
- 貢献と、達成感を感じるプロジェクトの難しさ

<これから>

- 「達成感」を感じる地域参加型プロジェクト
- 目標を設定すること、そして、その先も意識する

学生に 何を学んでほしいか？



参考文献、ウェブサイト

- ACTFL <https://www.actfl.org/>
- 国際交流基金 JF日本語教育スタンダード
<https://jfstandard.jp/top/ja/render.do>
- 石田敏子 (1988)『日本語教授法』大修館書店
- 佐藤慎司・熊谷由理 (2011)『社会参加をめざす日本語教育—社会に関わる、つながる、働きたける』ひつじ書房
- 當作靖彦 (2013)『NIPPON 3.0の処方箋』講談社
- 當作靖彦, 中野佳代子 (2013)『外国語学習のめやす』公益財団法人国際文化フォーラム

ありがとうございました。

yshiomi@asianlan.umass.edu

